

平成23年5月1日

第86号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



うばがだいら  
姥ヶ平より茶臼岳を望む（栃木県那須町）  
（撮影者：塩那森林管理署 藤原 和也）

## 国際森林年記念行事「グリーンフェア2011」

計画部 指導普及課

## 私と国有林 「森林環境学習の場・福島県」

福島県自然保護協会 星 一彰 氏



2011・国際森林年



# 国際森林年記念行事

## グリーンフェア2011

### 計画部 指導普及課

関東森林管理局では、昭和51年から森林・林業や国有林野事業に対する理解を深めていただくことを目的として、毎年4月にグリーンフェアを開催しています。

本年は、国連の定めた「国際森林年」であり、豊かな森林を守り育てていくために、国民一人ひとりが具体的に行動することが求められています。そのため、関東森林管理局では、我が国の森林・林業を再生し、美しい森林づくりを推進するはずみとなるよう、取り組んでいきたいと考えています。

国際森林年の目的は、森林の持続可能な経営についての認識を広めることですが、「森林の持続可能な経営」と言っても、多くの国民にはわかりにくく、更には日本や世界の森林の現況を少しでも理解してもらう必要があります。

森林は、水源涵養、国土保全、生物多様性の保持、木材生産といった様々な機能を持っています。そしてそれは、全ての人々の生活に、直接的・間接的に関わっています。そのことを国民全体として改めて考えて

みることに、そして森林に対する自分の考え方をもち、それに対する行動につなげていくことが求められています。

具体的な方法として、森林づくり活動に参加することや、国産材を積極的に活用すること、あるいは緑の募金などでこれらの活動を支援するなど、様々な形で参加することができます。

我が国では、それらを理屈で説明する前に、まずは、身近な森林に親しんでもらうところから始めようとする国内のメインテーマを「森を歩く」、サブテーマは「未来に向かって日本の森を活かそう」「森林・林業再生元年」とされました。

「森を歩く」という国内テーマにおいて、これまで以上に多くの人に森林を知ってもらい、森林に入るきっかけをつくっていかねばなりません。

そこで、平成23年度のグリーンフェアでは、未来を担う子ども達が森林の大切さを考えるきっかけとなることを目的として、群馬県内の小学生を対象に「国際森林年記念グリーン

### 国際森林年記念グリーンフェア2011「絵画書道コンクール」 受賞者一覧表

#### 関東森林管理局長賞

【絵画の部】	高崎市立片岡小学校	2年	大久保 敬太
【書道の部】	前橋市立桃川小学校	6年	太田 明花

#### 群馬県教育長賞

【絵画の部】	高崎市立北小小学校	4年	富樫 皆美
【書道の部】	前橋市立細井小学校	4年	星野 美彩稀

#### 上毛新聞社賞

【絵画の部】	館林市立第二小学校	1年	小堀 杏実
【書道の部】	下仁田町立下仁田小学校	6年	佐藤 穂貴

#### 日本放送協会前橋放送局長賞

【絵画の部】	高崎市立城東小学校	1年	井澤 菜々美
【書道の部】	前橋市立荒牧小学校	6年	大畠 玖里香

#### 群馬テレビ賞

【絵画の部】	前橋市立敷島小学校	4年	馬 希慧
【書道の部】	前橋市立月田小学校	5年	鈴木 智大

#### エフエム群馬賞

【絵画の部】	前橋市立桃木小学校	3年	牧野 怜奈
【書道の部】	前橋市立荒牧小学校	3年	中嶋 直人

#### 群馬県緑化推進委員会理事長賞

【絵画の部】	群馬大学教育学部附属小学校	6年	村山 諒
【書道の部】	前橋市立時沢小学校	3年	井藤 美月





関東森林管理局長賞を受賞された太田明花さん

フェア絵画書道コンクール（募集期間：平成22年12月24日～平成23年3月31日）を実施したところ、絵画73点（24校）、書道173点（38校）の応募がありました。

この中から、日本美術会会員の唐沢恭二氏並びに群馬県書道協会委員の黒岩初音氏による審査が行われ、絵画書道ともに、関東森林管理局長賞、群馬県教育委員会教育長賞、上毛新聞社賞、NHK前橋放送局長賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、（社）群馬県緑化推進委員会理事賞の7つの賞が選定されました。

また、4月29日に行われた表彰式では、群馬県立前橋東高等学校吹奏楽部による式典演奏や同書道部による「森林へのメッセージ」、「被災



書道部による「森林へのメッセージ」

地復興へのメッセージ」の揮毫が行われ、式典に花を添えて頂きました。午後からは、『森を歩く』の趣旨に基づき、森を歩くようなイメージでのパネル展示や、群馬県林業技士会、日本森林林業振興会前橋支部の協力も得ながら、関東森林管理局構内を歩く「樹木ラリー（15本の樹種を選抜、クイズ形式）」を実施したほか、親子丸太切り、シイタケ原木の作成等を行いました。

絵画書道コンクールへの参加や当日の式典への参加、また各コーナーでの体験を通じて、世代を超えた人々と連携し、豊かな恩恵を与えてくれる理想の森林づくりを目指すことの大切さを発信するこ



群馬県立前橋東高等学校吹奏楽部

とができ、国際森林年の目的への第1歩を踏み出すことができたと考えます。



親子丸太切り・シイタケ原木の作成



樹木ラリー



**高尾森林センターのご紹介**

昭和61年、首都圏に住む多くの方々を対象に森林・林業の普及と国有林野事業のPR機関として八王子市廿里町に高尾森林センターは誕生しました。

当時は木材価格が低迷し林業生産活動が縮小の方向にあり、森林が荒れることが心配されていた時期でもありません。また、国民の視点が「物の豊かさより心の豊かさ」を求めるようになり、森林に対する要請も高度化・多様化し「森林を利用したレ



新庁舎(1階:展示室・木工体験室)

クリエーション」が増加した時期でもありました。

高尾山は都心から約50km、新宿から電車で約1時間と交通の便に恵まれ、遊歩道は、自然研究路1号路(6号路、稲荷山コース、いろはの森)などが整備されています。また、高尾山には約1,300種の植物が生息し、野鳥や昆虫などの動物も数多く見かけることができる自然休養林です。高尾山の入り込み者数は、年間250万人とも300万人ともいわれ、森林・林業に対する理解を広める目的で設置された当センターへの期待は大きいものがあつたと思われま

す。設立当初はそれまで前例のない組織であり、プログラムの一から知恵をしぼり効果的なイベントを企画することに並々ならぬ努力と苦労があつたものと思われま

す。26年目に入った現在は、市民を対象とした公募イベントや小中学校の森林教室などの依頼イベントを行い、参加者からも好評をいただき、さらに工夫を加えて充実を図っています。

センターの建物(庁舎)も当初は仮住まいで、2ヶ所に分かれての勤務でした。正式な庁舎が完成したのが3年後の昭和63年です。その後20年目となった平成19年には、高尾山口に展示室と木工体験室を併設した新庁舎が建設されました。また、この間にイベントの拠点施設として、

日影沢の「ウッドデイハウス愛林」や大平の「森林ふれあい館」、キャンプ場や「いろはの森」などが整備され活動環境も充実してきました。

例年行っている親子を対象とした「樹木博士と木工体験」では、いろはの森で樹木を覚え、ハウス愛林で認定試験を行い、キャンプ場で木工体験を行っています。なお、愛林では写真展なども行い、一般の方に無料で開放しています。

一方、地域社会とのつながりでは、広報誌の頒布や会合・行事への積極的な参画を通じて、地元の八王子市薬王院、高尾登山電鉄、京王電鉄等のご理解ご協力を得ることができ大変感謝しています。諸先輩の築き上げた実績をもとに、都市住民はもとより、特に子どもたちに森林(自然)に触れ合ってもらい、新たな発見や感動を得ていただき、森林や林業に対する理解が深まるように今後とも努めてまいります。



いろはの森での植物観察

**当センター・イベント等に関する情報につきましては、こちらをご覧ください。**

<http://www.rinya.naff.go.jp/kanto/takao/index.html>



ウッドデイハウス愛林での樹木博士認定試験の様子



森林ふれあい館



吾妻山周辺森林生態系保護地域(鎌沼)

国有林の多い雪国福島県の場合、国設猪苗代スキー場で距離スキーの競技と雪上自然観察会に参加してきた。最初にアルペンの滑降や回転としてノルディックの距離に出場、学生時代は、北大の三浦雄一郎と小樽毛無山コースの滑降競技に出場、当時インカレは二部制で、彼は優勝、私(東京教育大スキー部)は36位だった。福島県立高校教師時代は、距離競技を専門にスキー部を指導、ノルディック種目でインターハイに出場。私自身も距離教員の部で県体スキー連続10回優勝。国体スキー6回出場、2回入賞など心に残っている。スキー関係すべて国有林のお世話になっている。



奥会津森林生態系保護地域(尾瀬・重兵衛池)

1960年代、自然観察会が、裏磐梯中心に、日本で初めて開催、現在、各地で環境学習のための自然観察会が、開催されている。自然観察会は、生態系の機能と構造を理解すること、特に森林の階層構造を観察することが中心となっている。福島県内では、特に積雪期間の長い会津地方で、距離スキーによる雪上自然観察会が開始された。アマチュアトラッキングなど野生動物の行動観察、水資源問題を考える重要な行事として継続されている。

最初、自然保護教育活動として運動を展開してきたが、1990年代になり文部省(現、文部科学省)により環境教育としてスタート、今日に至っている。西郷村の国立那須甲子少年自然の家では、文部省主催の各種現地研修会が開催され、特に小学校教師のための全国研修会は、3年間継続された。現在、福島県では、環境教育の拠点として尾瀬地方を考え、教師のための環境学習プログラム開発など試みられている。



天然記念物・福島県花ヤエハクサンシャクナゲ(吾妻連峰)

自然観察指導員養成も重要な事項で、日本自然保護協会との連携による養成講座を開き、多くの指導員を養成してきた。国有林内の尾瀬という特異な環境理解のため尾瀬自然保護指導員養成講座も、群馬県の自然保護NGOと連携しながら開催できた。



福島森林管理署による自然観察会(きぼっこの森)



日本における距離スキーによる雪上自然観察会発祥地(裏磐梯)

現在、福島県内の国有林は、吾妻山周辺森林生態系保護地域、越後山脈森林生物遺伝資源保存林、阿武隈高地森林生物遺伝資源保存林、東北地方の緑の回廊、奥会津森林生態系保護地域、会津山地緑の回廊、日光・吾妻山地緑の回廊などに指定されており、私はすべての委員会に出席することができた。本年は国際森林年であり、福島県内の国有林の保護と利用について考察を深めたい。

# 森づくり最前線

棚倉森林管理署 鮫川森林事務所 森林官 蛭間 敦子



うまいもの祭り(楽しくて、ウマイです。)



田んぼの周りは国有林

この村の名前でもある「鮫川」の源流は、実は国有林にあります。最近、村や下流地域のいわき市の小学生が環境教育の一環で訪れるようになりました。また、村の最高峰である朝日山も国有林であり、小学生の遠足や気軽に楽しめる山として村外の人からも親しまれています。鮫川の源流や朝日山で自然観察など森林環境教育が行われることがあるので、これからは積極的に参加し、人々との交流を通じて、国有林や森林官の仕事を伝えていきたいと思ひます。

森林官、そして鮫川村民1年目の私は慣れないことやわからないことが多い中、諸先輩方や村民の皆様のあたたかさに支えられ、この1年を楽しく過ごすことができました。2年目となる今年、沢山のことを経験し、学びながら、少しでも未来の鮫川村の子どもが自慢できるような森林づくりをしていきたいと思ひています。鮫川村のスローガンは「まめで達者な村づくり」です。私も鮫川村で「まめで達者な森づくり」を目指して、これからも森林官業務に奮闘していきたいと思ひます。

私が勤務する鮫川森林事務所は福島県の南部にある阿武隈山地に位置し、鮫川村の国有林約3,800畝を管理しています。

鮫川村は中山間地域で昔ながらの日本の原風景が広がっています。真冬の星は数えきれないほど見ることができ、星を眺めながらの初冬の散歩はとても寒いですが、自然の雄大さを感じることができます。また、「江竜田の滝」や「鹿角平観光牧場」など自然を楽しむ観光名所があり、「鹿角平観光牧場」では、迫力あるフリースタイルモトクロスや美味しいバーベキューを楽しむことができる「うまいもの祭り」が毎秋に開催され、当日は沢山の人が訪れてにぎわっています。

鮫川村の国有林は、奥山よりも家のすぐ裏にある森林が多く、村の人々の生活に密着しています。お年寄りの方々の中には、以前、国有林で植付や下草刈りなどの仕事をしたことがあるという方が多く、「この辺り(だいたい家から見渡せる範囲以上!)の山は私が植えたんだよ。」というスーパーおばあちゃんもいます。しかし、現在は山での仕事は少なくなり、村の若者に会うと「あなたはどんな仕事をしているの?」と聞かれたり、家の裏が国有林だとは知らない人がいたり、国有林が身近にあるのに遠い存在になっていると感じます。



鮫川源流での集合写真(足元の湧水が源流。)



朝日山で自然観察

# 管内の百名山「那須岳」



剣が峰から望む茶臼岳

那須岳は栃木県北部に位置する那須連山の総称ですが、その主峰である茶臼岳の意味でも使われています。

茶臼岳は、日本百名山にも数えられる標高1,915㍍の活火山です。今でも「茶臼の釜」と呼ばれる噴火口から蒸気と火山ガスを盛んに噴出して、遠方からでも白い噴煙が上がっているのが観察できます。

国有林では、この茶臼岳を中心とした地域をレクリエーションの森「茶臼岳自然観察教育林」に指定しています。標高の高いところではハイマツ、シャクナゲ、ガンコウランなどの高山系の植物が生育しており、山麓には樹齢100年を超えるコメツガ、ネズコ、ダケカンバ、那須五葉松などが見られます。特に秋の紅葉時期には、茶臼岳の裾野に広がる「姥ヶ平」周辺の山一面が赤や黄色に彩られとても美しい様相を呈し一見の価値があります。



那須ロープウェイから茶臼岳を望む

茶臼岳へは、登山口である「峠の茶屋」（標高約1,400㍍）まで車で行けるほか、「那須ロープウェイ」により山頂付近（標高約1,700㍍）まで行けることから、一般の方でも気軽に山頂まで訪れることができます。

また、茶臼岳周辺には多くの登山道がありますが、地元山岳会や自治体などにより案内板等が整備されており、春の新緑から秋の紅葉シーズンの間、登山者で賑わいを見せます。

ただ残念なのは、気軽に登れるためゴミのポイ捨てなどの問題や、ペット連れの方が増えたことによるトラブルも増えています。

こうした状況を踏まえ、塩那森林管理署では地元の方々の協力や、森林保護員による那須岳一帯のパトロールを行い、訪れる方々が気持ちよく登山できるよう、登山者のマナー向上への呼びかけ等を行っています。

(塩那森林管理署 広報広聴連絡官)



茶臼岳の紅葉とひょうたん池

〒378-0018 沼田市鍛冶町3923-1  
電話番号 (0278) 600-1272  
ファックス (0278) 24-5092  
<http://www.rinmainet.go.jp/kanto/kanto/akaya/ct/news/index.html>

お申し込み・お問い合わせ先  
赤谷森林環境保全ふれあいセンター  
担当：竹田・星田

申込締切 平成23年5月23日(月)  
参加費 無料

実施日 平成23年5月29日(日)  
実施場所 赤谷の森(小出俣エリア)  
(関東森林管理局(前橋市)又は  
利根沼田森林管理署(沼田市)集合)  
募集人員 20名(定員になりしだい締切)  
申込方法 イベント名「赤谷の森自然散策」及び参加者全員の①氏名②年齢③性別④郵便番号⑤住所⑥電話番号⑦希望する集合場所等を、当センター担当者にお知らせください。



赤谷の森自然観察教育林

2011 国際森林年関連事業

## 参加者募集



国民の森林・国有林

■ ■ 編 発  
行 所  
集 所  
総 関  
務 東  
課 森  
局 林  
管  
理  
局

F T  
A E  
X L  
(0 (0  
2 2  
7 7  
) )  
2 2  
1 1  
0 0  
・ ・  
1 1  
1 1  
5 5  
9 8